

医療の進歩と社会に貢献するトータル医用ソリューション

Total Medical Solution Provider Contributing to Progress of Healthcare and Society

巻頭言

次の100年へのスタート地点に立って

At Starting Line of Next Hundred Years

今からちょうど100年前の1915年に、国産初のX線管が誕生しました。その開発と製品化に成功したのは東京電気(株)であり、それが現在の東芝メディカルシステムズ(株)の事業の始まりです。それから100年、当社の事業分野は変化しつつも様々な医療ニーズに応えるため、革新的な医療関連技術を開発し、数多くの機器及び技術を世に送り出してきました。

当初は国内向けから始まった当社の医療機器事業も、グローバルな事業展開により現在では137か国に製品が輸出されるようになり、CT(コンピュータ断層撮影)製品分野は世界第2位のシェアを誇るまでに成長しました。現在では世界中の研究者と密接なネットワークを構築し、より高い臨床価値の提供を目指して研究開発に注力するとともに、より良い医療技術を求める多くの人々に広く最新の技術を届けられるように、日々取り組んでいます。

一方で医療被ばくへの関心も年々高まっており、少ない被ばくで臨床価値の高い医療情報が得られる装置が求められています。この流れのなかで、当社は放射線を使用する画像診断機器による被ばく低減にも積極的に取り組んできました。2011年には他社に先駆けて、最新の被ばく低減技術を世界中の病院施設で稼働中の全ての実装可能なX線CT製品に適用しました。このように人類の健康と幸福に広く貢献できることを誇りに思うと同時に、これまで当社製品をご使用いただいた医療関係者をはじめとする多くの方々のご支援に深く感謝しております。

次の取り組みは医療効率の向上です。総医療費の増大に伴う診療報酬削減の影響は、医療施設にコスト削減の圧力となって迫ってきており、毎日の診療や個々の医療技術に効率向上が求められています。これに対して当社は、装置のライフタイムコストを重視し、医療経営への負担を最小化した製品を次々と上市しています。

わが国は、世界でもっとも速いスピードで高齢化が進行しており、先進国の将来を映す鏡と見られています。世界共通の課題である、“高齢化に伴う医療費の増加と介護負担の増大を軽減しつつ、経済成長を維持する”という難題に立ち向かう社会の一員として、今後も当社は継続的な技術革新とソリューションの提供に注力し、社会に貢献していきます。



内蔵 啓幸
KURA Hiroyuki